

あら ぞの 荒園遺跡

- 1 所在地 曾於郡大崎町仮宿^{かりじゆく}
- 2 起因事業 東九州自動車道建設
- 3 調査年度 平成24年度～
- 4 主な時代 縄文時代, 古墳時代
- 5 遺跡の概要

荒園遺跡は、志布志湾から約4km西側へ入り、西側に持留川^{もちどめ}が流れる標高約40mの二次シラスによる段丘状^{だんきゅうじょう}に立地します。東九州自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡^{たてあなじゆうきよあと}2軒、縄文時代早期の土器や石器及び集石遺構3基が出土しています。また、約7,300年前に鬼界カルデラが大爆発をした時に発生した地震による液状化現象^{えきじょうかげんしょう}の跡も発見されています。



1号竪穴住居跡



約7,300年前の液状化の跡

6 注目される成果

(1) 古墳時代

古墳時代（約1,500年前）の調査では、竪穴住居跡が2軒が発見されました。1号住居は3m×3mの大きさで、住居の中には完形の土器がたくさん残されていました。

2号住居は5m×5mの大きな住居で、中には炭になった木材がたくさん残っていました。このことから火事で焼けた住居ではないかと考えられます。また、住居内で溝が確認されたことで、内部は壁などで仕切られていたこともわかりました。

(2) 液状化の跡

今から約7,300年前に、現在の硫黄島のあたりに大きな火山（鬼界カルデラ）が大爆発を起こしたことが地層の観察で知られています。

大きな爆発では最初に軽石が飛んできて堆積します。その後火砕流^{かさいりゅう}が起こり、最後に火山灰が降り積もります。荒園遺跡で発見された液状化の跡は、最初に積もった軽石層を切り裂いてシラスや砂を含んだ水が噴き出したようです。その後アカホヤと呼ばれる火山灰^{ふんさ}が降り積もっています。吹き上げられた白っぽい砂は噴砂と呼ばれ、厚いところでは1mも堆積しています。